令和２年11月定例仙台市社会教育委員の会議　会議録

1　開催日　　令和２年11月24日（火）

2　開会及び
　閉会の時刻　　午前１０時００分開会　　午前１２時００分閉会

3　開催場所　　仙台市役所教育局第１会議室

4　出席委員氏名　　阿部哲也委員，小形美樹委員，加茂光孝委員，齊藤康則委員，
　　庄司弘美委員，佐藤智子委員，髙城みさ委員，高橋満委員，
　　野原昌之委員，広瀬剛史委員，松本由男委員，松山智美委員

5　事務局職員　　筒井生涯学習部長，佐藤生涯学習支援センター長，
　　田中生涯学習課長，勢藤生涯学習課主幹，唐牛生涯学習課企画係長，
　　生涯学習課企画係松田主事

6　会議の次第
(1) 開会
(2) 挨拶　高橋委員長
(3) 報告事項
①「（仮称）仙台市教育構想2021」中間案について
(4) 協議事項
①調査報告
②施策の柱建てについて
③その他
(5) その他
(6) 閉会

7　会議の概要
(1) 報告事項
①「（仮称）仙台市教育構想2021」中間案について
○事務局より、「（仮称）仙台市教育構想2021」中間案について説明がなされた。事務局から、パブリックコメントの案内と関連団体から意見聴取を行う予定である旨も併せて報告し、来年２月上旬にパブリックコメントなどの結果を踏まえて検討委員会で最終案の検討が行われ、３月までに総合教育会議で教育構想が策定される予定であることを報告した。

○中間案に対する意見として挙げられたことは以下のとおり
・「(仮称）仙台市教育構想2021」中間案P14の「３．多様な主体の連携・協働」内「○社会全体での学びの環境づくり」の中に、「学校を核とした地域づくり」とあるが、地域の方がこれを聞くと、地域というのは学校を核としてあるものと思ってしまうのではないか。地域と学校はともにあるものというイメージを持てるような表現に

してみてはどうか。

・学校教育に関する記述が多く、社会教育や生涯学習に関する記述が少ないように感じる。学校教育に特化して考えても、社会に開かれた教育課程といわれるように、学校教育も学校だけでは実現できない方向に向いてきていると思う。
学校教育を中心に周りに社会教育をオプションとして散りばめる感じではなくて、一つの生涯学習として、学校教育も社会教育も全部統合された公教育というものを見据えた構想になると良いのではないか。

・具体的に行政として予算使う場合、学校教育分野に重点が置かれることにはなると思うが、せっかくの「教育構想」なので、仙台市としてどういう教育を構想するのか、ある意味壮大に絵を描いて、もう少し広く生涯学習の視点が入ると良いのではないか。

・国際的な生涯学習の視点が入ると良いのではないか。

・「(仮称) 仙台市教育構想 2021」中間案 P16 の基本理念について、「自立」という言葉が出てくるが、その言葉に多様な意味合いが含まれるものだと考える。経済的な意味での自立、自分の生活のあり方を決めるという自立、福祉の関係の人の立場からすると依存的自立という概念もある。「自立」のコンセプトをどう考えるか記載があると良いのではないか。

・「(仮称) 仙台市教育構想 2021」中間案 P16 の基本理念に記載がある『人がまちをつくりまちが人を育む「学びの循環」』について、この言葉からも、社会教育分野への記載について全体的にもっと充実させるほうが良いのではと思う。「構想」なので、５年先というか、先を見据えた新たな取り組みについても書き込むと良いのではないか。

(2) 協議事項

①調査進捗報告

○10 月末に行った、民生委員児童委員の訪問調査について松本委員より報告がなされた。

○調査にて課題・意見として挙げられたことは以下のとおり

・活動するにあたり、個人情報保護の観点もあり、情報把握が困難な場合がある。
・民生委員児童委員と行政・学校がもっと一緒に活動し、連携力を高め、情報を共有できる体制をつくっていくことが必要ではないか。
・学習活動への参加が難しい方々が、広い意味での学習活動を積極的に行うために、学習意欲を高めるような支援を考えることが必要なのではないか。

②施策の柱建てについて

○各委員より、事前に照会したご意見についてそれぞれ概要について発表いただいた。
意見として述べられたことは以下のとおり

【障害のある市民の生涯学習について】

・「学び続けることができる社会」をピックアップした施策を出せると良いのではない

か。

・既存のサービスで賄いきれない部分があるのではないか。障害者の「社会参加」として、障害のある方はまず「働く」という意味での「社会参加」をすることに重きが置かれているように感じる。既に行われている施策のなかに、生涯学習的な人材やノウハウが求められている部分があると思うので、その点を取り入れながら考えていくことが必要なのではないか。

・学校活動の中には、少ないながらも生涯学習に関わる活動があるが、学校卒業や就労した際に活動できる場が少なくなるという実情がある。
ＳＤＧｓの中に「誰一人として取り残されない」という目標があるように、一人一人が豊かな人生を送るために学び続けられるように、障害者の方々の様々なニーズにきめ細かな支援が行われると良いのではないか。

・障害者の方々の中には、家の中から出ない方もいらっしゃると思うので、周知徹底することで、今まで施設を利用したことが無い方も参加しやすい施策があれば良いのではないか。

・保護者や支援者の方々の要望に沿った支援をしていく必要があるのではないか。

・障害を持つ方々の生涯学習については、通常のように実績を参加者数として図れないのではないか。周知徹底、他部局との連携、講座の補助など検討必要ではないだろうか。

・答申を検討する際、限られた予算の中で現場が具体的にどうするのか、どうやっていくのか、という点も留意し、理想論にならないよう答申を考えていくことが必要ではないか。

【貧困の中にある人々の生涯学習について】

・引け目を感じたり、コミュニケーションに不安を感じる方もいらっしゃるので、まずは来やすい施設になるということが必要ではないか。
同時に、最終的な目標を「施設を利用する、サービスを提供する」というところに置くのか、「施設の活動やサービスに実際に参加しやすくする」というところに置くのかというところも考えていく必要があるのではないか。

・訪問調査させていただいた団体からいただいたご意見について、全ての要望を実現させることは難しいが、「生涯学習に参加する上での課題や問題」「仙台市が行うべき施策」についてのご意見をまとめ、極力いただいたご意見を反映させた答申としていきたいと考えている。

・今生じている課題や問題は、既存の行政や社会構造では上手くいかず解決できないために起こっているものと考えると、既存の枠組みを抜本的に変えていく必要があるのではないか。生涯学習という枠組みを改めて捉えなおし、従来的な学校中心主義の発想を見直し、考えていきたい。

・「生涯学習」の在り方として、「余暇を利用した余裕がある人のカルチャー・知識の習得」として捉えられているのではと感じる。「生涯学習」の在り方そのものを考え直さないと解決できない問題なので、例えば市民センターで生涯学習を考えるワークショップを開催するなど、生涯学習を考えること自体で社会とつながっていくことが必要なのではないか。

・「生涯学習」が市民センターを利用したり、社会教育施設を活用するようなこととすると、貧困の中にある方々は、家族の面倒を見るなど時間が無い方も多く、情報提供や施設の貸し出し利用の仕組みを作ったとしても結び付けられないのではと思う。その際に、「コーディネート」できる人材が必要なのではないか。コーディネートす

る人材を育てることも必要になるが、民間のＮＰＯにお願いするのか、行政が行うのか、どこまで踏み込むのかということも含め、検討必要なのではないか。
「生涯学習」を施設利用や講座受講に限らず、どこまでを社会教育として取り組むのかについても同時に検討が必要だと考える。
・今ある組織を掌握して繋ぐという視点も大切なのではないか。今までも要望を取り入れて組織されたものはあると思うので、その連携強化を図ることで、情報提供の強化であったり、ワンストップ組織の実現を図れるのではないか。
・学習意欲があまり高くない方々もいらっしゃるので、学習効果のメリットが分かりやすいようコーディネートして、学習意欲を高める施策が必要なのではないか。

○各委員のご意見を受けて、委員長から施策の柱建て（案）について説明がなされた。以下は、説明内容の概要。
・今回の資料６が施策の柱になるということではなく、検討の素材としてこれから議論していきたい。
・資料６については、障害者の方々、貧困の中にある方々に対して、どのような考えに基づいて学習機会を提供するのかを法的な観点も含めて整理したもの。
・今回の構成としては、障害者の方々と、貧困の中にある方々についてそれぞれ独立した形で整理をしている。

○事務局より、資料７に沿って他都市の事例について紹介した。

○資料６「施策柱建て（案）について」、資料７「（参考）他都市の取組事例」についての各委員からのご意見。
・「すべての市民のための生涯学習」について考える際に、関係性の構築と学校卒業後の支援がポイントになるのではないか。
関係性の構築としては、包括的な場づくりができると良いのではないか。
また、各調査結果から学校卒業後の支援に隙間があるように感じた。
関係性の構築と、卒業後の支援の充実は生涯学習のテーマになってくるのではないか。
・生涯学習には限界があるので、他の期間との連携を検討していく必要があるのではないか。
・障害のある方々や貧困の中にある方々に生涯学習的なアプローチをすることは、「働く」ということが優先されるので難しい側面はある。しかし、生活や教育、文化活動といった「楽しみ」は必要になってくるだろうということで、どう踏み込んでいくか議論していきたい。
・仙台市でいう「市民センター」は個人に知識を授けるだけではなく、学習活動を行う中で人と人とのつながりをつくる場所であると考えており、今回の施策の中でも柱に組み込んでく必要があるのではないか。

③その他
○特になし

8　その他
特になし

「仙台市社会教育委員の会議実施要領」第４条及び第５条に基づき会議録を作成し，同要領第６条に基づき委員長及び会議録署名人が署名押印する。

令和 2 年 12 月 28 日

委員長　　高橋 満

会議録署名人　　髙城 みさ